

平成 22 年度 事業 報告 書

平成 22 年 8 月 1 日から平成 23 年 7 月 31 日まで

特別非営利活動法人 東京ノーヴィ・レパトリーシアター

1. 年度総括(平成 22 年度までを振り返って)

私たちは、演劇を通して“心を豊かに育てる文化・芸術”を広く普及させ、社会に貢献することを目指し、活動を続けてきました。

平成 22 年度までの文化普及活動に於いて、私たちが一貫して大切にしてきたことは、享受する人々に「心や精神、魂の豊かさについて、大切に伝えなければいけない」という事と、「表現する事の責任を、自分たち自身に厳しく課さなければいけない」という事です。

芸術団体として、自分たちが表現する内容に、厳しい責任をもって取り組むこと。その姿勢がなければ、芸術は社会に貢献するどころか、社会に於ける存在の意味を失ってしまうと私たちは考えています。表現をただの自己欲求に終わらせず、自律的に、普遍的な高みへと昇ってゆくべきだと思います。

上記の考えに基づき、私たちは、その活動の当初から、芸術監督制度を採用し、海外(ロシア)から第一級の芸術家を招聘し、研鑽を続け、常にカンパニーの質と能力の向上に努めてきました。

このことは、結果として、非常に斬新でユニークな活動を実現することとなりました。第一にそれは、日本ではまだ珍しい、ヨーロッパ式レパトリーシステムによる公演システムを実現したことです。

この「ヨーロッパ式レパトリーシステム」というのは、日替わりで、次々と演目を代えて上演を行う形態です。(この公演形態は、その技術的な難しさを抱えながらも、一方で、実は私たち実演家の能力向上の面では大きなメリットをもたらすものです。)

この日替わりで、色々な名作を次々と上演できることのメリットは、何よりも観客の立場に立てば、多くの名作舞台に、日常的に触れられる、気軽に見られるという事に尽きるでしょう。この公演システムによって、私たちは過去7年間にわたり、日本や海外の古典を中心とした優れた芸術作品を、長期にわたって安定して提供してきました。

この間に私たちが提供し続けてきた作品群は、ロシアのチェーホフの 4 大戯曲「かもめ」「ワーニャ叔父さん」「三人姉妹」「桜の園」(その他、実験的な公演として「イワーノフ」「熊」「プロポーズ」の上演もありました)、M・ゴーリキーの「どん底で」、また古典の代表とも言えるシェイクスピアの「ハムレット」、日本の作品で言えば、近松門左衛門の「曾根崎心中」、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」があります。

また、現在は、戯曲だけでなく、長編小説の舞台化に幅を広げ、今年の秋にはドストエフスキーの「白痴」の上演を始めとして、日本の作家では加賀乙彦氏の長編小説の舞台化も準備を進めています。

第二に、私たちは独自の公演システムを確保することにより、小規模ながらも、劇場運営面(現在は、まだ小さなスタジオ劇場ですが)を通して、社会と関わる実践的な場を得ることが出来ました。但しこの点に関しては、まだ明確な成果は出ていません。日々、苦勞の連続です。けれども、芸術団体として、芸術創造とマネジメントを結び付けるという、最も困難な問題を解決しなければ、本当の意味で、芸術を社会の中で根付かせることは出来ません。

とは言え、運営に携わるメンバーは実質的に素人の集団に近いと言えます。この面では、まだまだ大きな課題を抱えており、今後アートマネジメントの専門家の協力を必要としています。

前年度、多くの方から、私たちの活動に対してのメッセージをいただきました。私たちの活動報告の一部として、紹介させていただきます。

○河合 祥一郎様（東京大学教授）

レパトリーシステムで常に上演を続けていくことは、演劇のあり方として非常に重要です。下北沢で7年もすでに続けてきたこと自体すばらしいことです。今後共、多くの観客に感動を与え続けて下さい。

○田口 ランディ様（作家）

東京ノーヴィ・レパトリーシアターの皆さま、表現をする者にとって今は少し厳しい時代と言えらると思います。でも人間の在り方そのものが問われている状況にあって、東西の古典を上演し続けるというのは大変に価値あることだと思っています。東と西の精神性は大きく違いますが、その出会いの中から、新しい価値は創造されていきます。それはまちがいありません。どうか、これからも東西の精神文化の統合のためにがんばって下さい。

○野々部 利弘様（僧侶）

私は、『東京ノーヴィ・レパトリーシアター』を応援しています。

私の寺で「曾根崎心中」を上演して頂きました。「真っ直ぐな方たち」だなあ、というのが第一印象でした。しかも「心」とか「魂」といったような、本当の真実を深い世界を模索している劇団という印象も持ちました。彼らのエネルギーが、彼らの伝えたいことが、もし世の中の人に伝え理解できるようになれば、そのときは時代が大きく変わるときなのかもしれません。そんなエネルギーをもらえる「ノーヴィの力」を多くの方に伝え応援して行きたいと思っています。

以上の平成22年度までの文化普及活動の中で、私たちは、自己のカンパニーの能力の向上に努めるだけでなく、その芸術理論と実践の方法を広く一般に公開し、あるいはシンポジウムや、文化人の座談会を企画し、毎年度継続して、新しい文化普及活動に努めてきました。また、その延長として数年前に、韓国のインチョン市に、兄弟劇団としてのレパトリーシアターが誕生し、現在も活発な活動を展開しています。

現在、私たちは新しいステップを迎える計画を進めています。

これまでの小さなスタジオ劇場から、客席数150席目安の劇場に本拠地を移し、より充実したシステムで、より多くの方々に優れた芸術作品に触れてもらうことです。この計画の進捗に関しては、来年度の事業報告の中で、改めて報告させていただくつもりです。

今年、忘れることのできない出来事は、やはり3月11日の東日本大震災でありました。

この震災は、私たち芸術団体が、具体的に何が出来るのか？ どんな形で支援していけるのか？ について、大きな課題を突きつけて来ました。

今も被災地で生活されている多くの方々が一日も早く、その心に活力を取り戻せるよう積極的に取り組んで行きたいと思っています。

理事長 岡崎 弘司

2. 事業報告

(1) 特定非営利活動に関わる事業

●事業名：演劇の公演事業（定款5条-1）

事業内容：「年間レパートリー」公演

当年度で7年目を迎え、引き続き、日本や海外の優れた近代・古典作品の上演を、約4ヶ月間にわたり、毎週、平均3作品のペースで、広く公開してきました。

尚、この年度は、東日本大震災の影響により、約1ヶ月間、都合6公演の上演を中止・自粛とし、休演期間中に劇場のメンテナンスと災害対策の見直しを行いました。

上演演目： M・ゴーリキー作 「どん底で」
W・シェイクスピア作 「ハムレット」
近松門左衛門作 「曾根崎心中」
宮沢賢治作 「銀河鉄道の夜」

実施期間：2011年2月4日～2011年5月30日（4演目／34公演）

実施場所：東京ノーヴイ・レパートリーシアター劇場（世田谷区）

従事者の数：43人

受益対象者の範囲及び人数：一般市民 439人

支出額(単位;千円)：6,678

2010年度(第7シーズン) 上演作品より



近松門左衛門作「曾根崎心中」



ゴーリキー作「どん底で」



宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」



シェイクスピア作「ハムレット」

★アンケートより、一部を抜粋。

・エンターテイメントでない演劇を始めてみました。子供の頃から親にたくさん作品を見につれていってもらっていましたが、こんな演劇は初めてで、本を一冊読んだような気持ちになりました。「楽しませてもらう事」からこのように「作品を味わう」方が好きになりました。人間は人間の中で生きてるんだと改めて気づいたり。それぞれの人間の中に自分の記憶や経験をリンクさせたり。

ちょっと悩んだり、迷ってる大人たちに気づきを与えられる「ツール」でもあると思いました。本物の芸術ってなんの知識もない人をも感動させられるのだと思いました。今回の出会いに感謝します。

(銀行勤務 30代)

・今まで観た中で最も贅沢な演劇。たった26人の客席の為にだなんて、何て贅沢なことでしょう！

今回の「ワーニャ伯父さん」はとてもわかりやすかった！本に忠実！実は、他で観たもので、何だかな？と言う感があったところも、目からうろこが落ちるように！！

小道具などもきちんとしていて、雰囲気がちんと伝わり、後半は身を乗り出して見入っていた。3時間を全く長く感じませんでした。

(主婦 50代)

・普段の会話のように台詞が言われていることにまず驚き、派手な演劇よりずっと心に響く気がしました。俳優さんも役になり切っていてすごかった。役そのまんまに見えました。衣装・小道具・大道具も凝っていて綺麗。

(学生 10代)

・古典のものを高度な演出で行っている。演じる力が追いついていないと大失敗になってしまうと思うのだが、そうはならずにいるのは凄いと思う。チェーホフってもっと難しく考えていましたが非常に感情移入でき、つい泣いてしまいました。周りの観客の方々も何人か涙を流していました。素晴しかったです。

(銀行秘書 30代 女性)

・細かな描写が丁寧に作られていたので、非常にわかりやすく、飽きやすくなりがちなチェーホフの作品なのに最後まで集中してみることができました。他所で観劇して意味がわからなかった所が、こちらで拝見して「こういうことだったのか！」と得心するところ多々ありました。大変素敵な芝居で感謝しております。

(映像クリエイター 39歳)

・ほかの芝居じゃつまんなくなりました。うそじゃない。わざとらしくない。舞台みまくってるひとには衝撃ですね。わたしがそうだから。

(専門職 20代)

・今まで抱いていたイメージをくつがえされる珍しい『ハムレット』。演目は古典、演出は斬新。大げさでない演技、いかにも「お芝居」っぽい仕草やしゃべり方をしないけれど、役の人物の気持ちはちゃんと伝わってきました。とてもリアルな感じ。良かった。(書店アルバイト 30代 女性)

・とても楽しくあつという間の濃い三時間でした。ストーリーに吸い込まれ舞台の役者と私自身が一体になれたような、本を読んでいるかのような不思議な感じで楽しむ事が出来ました。役者さんの自然すぎるぐらいの台詞の掛け合いが心地よく腰を据えて見れた気がします。(30代 営業)

・舞台設計がシンプルなのに良くできていた。浄瑠璃代わりの人形劇も粋だ。関西弁、昔風言葉、花街の言葉など演出に引き込まれた。期待してなかったという、大変失礼だが、本当におもしろかった。あれなら、また見たいと本気で思った。
(30代 広告)

●事業名：俳優、演出家等の演劇創造に関わる人材育成及び支援事業（定款5条-2）

優れた芸術理論と、その実践的な方法論の公開、およびそれを通しての人材育成は、文化が広く根付いていくための重要な仕事だと考えています。

私たちは、毎年度継続して、当団体に招聘しているロシア功労芸術家、L・アニシモフ氏によるマスタークラスを、広く、一般の方々に提供・公開しています。

また、短期的な一般対象のクラスだけではなく、継続的に年間を通して学びたい、役立てたいという方のために、専門クラスとして「スタジオクラス」「シニアクラス」を開いています。

事業内容：「一般市民対象のマスタークラス」

《演出家・演劇教育者の為のマスタークラス》

2010年10月11日～10月27日(全10回)

《俳優の為のマスタークラス》

2010年11月2日～12月16日(全20回)

《俳優の為のマスタークラス VOL9》

2011年4月19日～5月19日(全15回)

《演出家・演劇教育者の為のマスタークラス

2011年6月2日～6月27日(全15回)

実施日時：2010年10月11日～2011年6月27日（計60回）

実施場所：東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場(世田谷区)

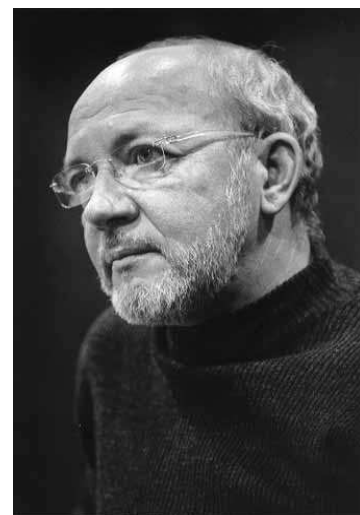
従事者の数：6人

受益対象者の範囲及び人数：

演出・演劇教育に興味のある一般市民 53人

および見学者 106人

支出額(単位;千円)：4,311



<講義風景より>



<講義風景より>



事業内容：「シニアクラス」

芸術創造の鍵は、個人の「人生体験の記憶」の中にあります。豊かな人生経験こそが、芸術を理解し、生み出していく土台となります。私たちは、特に 50 歳以上の人を対象にしたワークショップを開催し、自身の人生体験を生かす方法を継続的に公開してきました。

ワークショップの感想には「表現力の向上に加え、役と重なる人生を思い出すうちに今まで気がつかなかったことに気が付くようになった。」など実人生への変化を話される方が多くいらっしゃいます。2008年夏の 10 回のワークショップから、2 度のワークショップを経て、2009 年には「ワーニャ伯父さん試演会」を行なう為の、長期ワークショップを開催。2010 年には下北沢チェーホフ祭に参加するための上演を目指した「ワーニャ伯父さん」「桜の園」のワークショップが開催されました。今回は、「ワーニャ伯父さん」「桜の園」からワンシーンを使って行いました。

実施日時：2010年10月26日～12月21日（計10回）

実施場所：東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場（世田谷区）

従事者の数：6人

受益対象者の範囲及び人数：50歳以上を対象とした一般市民 19人

支出額(単位;千円)：200

事業内容：「スタジオクラス」

専門家としての俳優を目指す青年層を対象に、前年度に続き、実際の公演活動を体験しながら学ぶ場を提供してきました。(当団体の芸術監督L・アシモフ氏の指導・監修)

尚、同じく、東日本大震災の影響により、3月に計4公演の自粛と公演体制の見直しを行いました。

《スタジオ生による実習公演 A・チェーホフ作「イワーノフ」》

2011年2月6日～2011年5月22日(全8公演)

実施日時：2010年8月1日～2011年7月31日（通年）

実施場所：東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場（世田谷区）

従事者の数：3人

受益対象者の範囲及び人数：専門家を目指す一般市民 11人

支出額(単位;千円)：240

●事業名：演劇文化に関する情報収集及び情報提供事業（定款5条-3）

日本でまだ紹介されていない海外の文献の紹介や翻訳等を企画しています。

事業内容：「L・アニシモフの演劇創造について(仮題)」出版計画

当団体で招聘しているL・アニシモフ氏のこれまでの演劇講座が大変好評であるため、一般に公開できるような企画を準備中です。当年度は、L・アニシモフ氏のマスタークラスでの講義内容の、文字起こしから準備を進めました。

実施日時：2010年8月1日～2011年7月31日（通年）

実施場所：東京ノーヴイ・レパートリーシアター（世田谷区）

従事者の数：6人

受益対象者の範囲及び人数：一般市民

支出額(単位;千円): 6

●事業名：演劇を通しての国際文化交流事業（定款5条-4）

私たちは「奇人変人倶楽部」という愛情をこめた呼び名で、国内や海外の文化人や科学者、経済人など、様々な分野のスペシャリストを招いて、毎回テーマを選び、文化・芸術についての、自由な国際交流座談会を開いています。

事業内容：「第5回 奇人変人倶楽部」

今回はドストエフスキーの小説「白痴」から『人間の心を支配する、善と悪の葛藤』をテーマに、活発な対話がなされました。ドストエフスキーを、そしてムイシュキン公爵を理解する上で、大変に収穫のあった貴重な会となりました。

テーマ「人間の心を支配する、善と悪の葛藤」

<参加者 プロフィール>

- 今井 俊博(有ユーラシア・クリエイティブ・ジャパン代表)
- 一ノ瀬 美和子(鎌倉町おこし/金沢文庫芸術祭事務局、現在顧問)
- 上田 美佐子 シアターX(芸術監督/演劇プロデューサー)
- 大谷 光雄(町田演劇鑑賞会 会長)
- 加賀 乙彦(作家/精神科医)
- 鎌田 東二(京都大学こころの未来研究センター教授/京都造形芸術大学客員教授/宗教哲学・神道ソングライター)
- 小泉 千津子(町田演劇鑑賞会 事務局長)
- 甲斐 瞳(美術家/インスタレーション)
- 後藤 浩明(作曲家)
- 谷口 秀一(放送作家/劇作家/演出家)
- 鶴見 ユミ(韓国語教室運営)

- 遠坂創三(神奈川大学講師／ロシア語通訳)
- 時広 真吾 (衣装デザイン／演出)
- 中村 真木 (彫刻家)
- 西田 敬一(NPO 法人国際サーカス村協会代表／(株)アフタークラウディカンパニー代表)
- 平井 和成(真言宗武山派 安養院 住職)
- 森井 睦(日本演出者協会理事／ピープルシアター主宰／日本劇作家協会会員)
- 渡辺 歌子(シャンソン歌手)
- 佐藤 風太(ギタリスト)
- レオニード・アニシモフ (演出家／TNRT 芸術監督／ロシア功労芸術家／芸術学教授／全ロシアピョートル大帝科学芸術アカデミー会員)
- 岡崎 弘司(TNRT 理事長／俳優)
- 八木昭子(TNRT 芸術部部長／女優)
- ポール・レイヤー (TNRT 俳優／シアトル・ノーヴイシアター プロデューサー)

実施日時 : 2011年1月7日(金) 18:30～21:30
 実施場所 : 東京ノーヴイ・レパートリーシアター劇場 (世田谷区)
 従事者の数 : 6人
 受益対象者の範囲及び人数 : 23人
 支出額(単位;千円): 35

事業内容 : 「第6回 奇人変人倶楽部」

前回の奇人変人倶楽部では、ドストエフスキーの小説「白痴」をもとに活発な対話がなされました。今回は更に「白痴」のテーマに迫って行く為に、対話を続けたいとの、アニシモフよりの提案があり、「自分を捨てて人を救おうとする生き方(超個人)と自分の欲求のまま生きていこうとする生き方(個人)」を対比させ、「個人と、超個人との闘い」をテーマに、“超個人”としてのムイシュキン公爵と、他の登場人物たちについて活発な話し合いが行われました。また、この交流座談会では、特別企画として、磯部 舞子さんによるヴィオラ演奏を聞かせていただきました。

テーマ「個人と、超個人との闘い」

<参加者 プロフィール>

- 磯部 舞子 (バイオリン、ヴィオラ奏者)
- 今井 俊博 (有)ユーラシア・クリエイティブ・ジャパン代表)
- 上田 滋 (元、筑波大付属・小中高一貫校教諭)
- 上田 美佐子 (シアターX 芸術監督／演劇プロデューサー)
- 大久保 賢一 (韓国語通訳)
- 加賀 乙彦 (作家／精神科医)
- 鎌田 東二 (京都大学こころの未来研究センター教授／京都造形芸術大学客員教授／宗教哲学／神道ソングライター)

- 佐藤 風太 (ギタリスト)
- 釋 一祐 (ピオシップ代表/ツタワルカラダ主宰/宗教者)
- 谷口 秀一 (放送作家/劇作家/演出家)
- 遠坂創三 (神奈川大学講師/ロシア語通訳)
- 時広 真吾 (衣装デザイン/演出)
- 長屋 晃 (ロシア料理「渋谷ロゴスキー」顧問相談役)
- 藤原 幸久 (東京都出身)
- 渡辺 歌子 (シャンソン歌手)
- 李 哉尚 (Rhee Jae-sang 劇作家/演出家)
- レオニード・アニシモフ (演出家/TNRT 芸術監督/ロシア功労芸術家/芸術学教授/全ロシアピョートル大帝科学芸術アカデミー会員)
- 岡崎 弘司 (TNRT 理事長/俳優)
- 八木昭子 (TNRT 芸術部部長/女優)
- ポール・レイヤー (TNRT 俳優/シアトル・ノーヴィ・シアター プロデューサー)

実施日時 : 2011年6月26日(日) 13:00~16:30
 実施場所 : 東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場 (世田谷区)
 従事者の数 : 6人
 受益対象者の範囲及び人数 : 20人
 支出額(単位;千円): 28

●事業名 : 演劇を通しての地域文化への貢献及び交流事業 (定款5条-5)

私たちは、地域文化への貢献活動として、都内においては、アートを“劇場”以外の場で、楽しみながら実感し理解を深めて頂くための場所として、「アートサロン」を、毎年、開催しています。

上記以外の活動として、地域々々にある、寺院や古い洋館など歴史ある建物の中で、心に残るような芸術と触れてもらえるよう、その建物の雰囲気大切に、特別な演出での上演を行っています。これまでに、鎌倉市にある西御門サローネ(旧 里美惇邸)での「ワーニャ叔父さん」の上演のほか、幾つかの歴史ある寺院本堂で、「曾根崎心中」の上演を行ってきました。

また、町田市大戸小学校の卒業式では、卒業する6年生の子どもたちが、それぞれの思い出を語って伝える「声かけ」という行事を行っています。当年度、私たちは、大戸小学校に出向いて、子どもたちが大切な思い出を伝えられるよう、「声かけ」のお手伝いをしてきました。

事業内容 : 「アートサロン Vol. 10 ロシアの名作童話“影絵で楽しむ小さなお城”」

実施日時 : 2011年3月6日(日)16:30~19時
 実施場所 : 東京ノーヴィ・レパトリーシアター劇場 (世田谷区)
 従事者の数 : 5人
 受益対象者の範囲及び人数 : 一般市民 5人
 支出額(単位;千円): 3

事業内容 : 鎌倉 妙本寺「曾根崎心中」公演

妙本寺は「神奈川県鎌倉市大町にある、日蓮宗の本山(霊跡寺院)。山号は長興山。(Wikipediaより)」という、大変に由緒のあるお寺です。今回、私たちは、この鎌倉市 妙本寺の本堂で、「曾根崎心中」を上演させていただきました。

実施日時 : 2010年10月22日
実施場所 : 日蓮宗 妙本寺 本堂 (鎌倉市)
従事者の数 : 15人
受益対象者の範及び人数 : 一般市民 100人
支出額(単位;千円): 854

事業内容 : 東京 安養院 本堂「曾根崎心中」公演

安養院は、「東京都板橋区東新町にある真言宗豊山派の寺院。山号は武王山。この寺の創建年代等については不詳であるが、言い伝えによれば鎌倉時代に北条時頼によって再興され、現在の山寺号に改められたと伝えられ(Wikipedia より)」ているお寺です。
当年度は引き続き、東京都板橋区の安養院 本堂で「曾根崎心中」公演を上演させていただきました。

実施日時 : 2011年7月2日
実施場所 : 真言宗豊山派 安養院 本堂 (東京都板橋区)
従事者の数 : 15人
受益対象者の範及び人数 : 一般市民 200人
支出額(単位;千円): 1, 272

<2011年7月2日 安養院 本堂にて>



<2011年7月2日 安養院 本堂にて>



事業内容：「町田市大戸小学校 卒業式での声かけ」お手伝い

実施日時：2011年3月3日～3月16日（計5回）

実施場所：町田市大戸小学校（町田市）

従事者の数：3人

受益対象者の範囲及び人数：町田市大戸小学校を卒業する6年生 18人(全員)

支出額(単位;千円): 103

★ 大戸小学校6年1組の皆様から、「東京ノーヴィ・レパトリーシアターのみなさまへ」ということで、感想文を頂きました。抜粋して一部紹介いたします。

・4時間一緒に卒業式の練習をしてくださって、ありがとうございました。言葉を読む時に、「本当に楽しかった?」とか、「本当に緊張した?」など、いろいろ、その当時の事を思い出すのは、むずかしかったけど、でも、すごく楽しかったです。それに宿題が出た時、ビックリしたけど、たくさんできたのでよかったです。4時間一緒に卒業式のことを教えてくださって、ありがとうございました。

6年 女子

・毎日こんなにいそがしいのに来てくださってありがとうございました。いつもいいアドバイスありがとうございます。おかげで言えるようになりました。まだ、少し言えないところもありますが がんばります。またこの大戸小学校に来てください。本番もぜひ来てください。

本当にありがとうございました。

6年1組 男子

- ・4時間という少しの間だったけど、劇団の方にはとってもお世話になりました。呼びかけで ただ大きな声をだすんじゃなくて その時の事をよく思いだして、言うということ。聞いている周りの人が その場面を想像できるように言うこと。色々なことを教えてもらいました。卒業式は、そのことを生かしてがんばります。本当にありがとうございました。

6年1組 女子

- ・短い間だったけどありがとうございました。ぼくは この練習でおそわったことをいかして これからの練習でもがんばっていきたいと思います。おしえかたもとってもうまかったです ぜひ卒業式にきてください。本当にありがとうございました。

6年1組 男子

- ・4時間までいろいろとアドバイスをしてくれたおかげでうまく呼びかけができるようになりました。本当にありがとうございました。卒業式の呼びかけをいっぱいがんばります。

6年1組 女子

- ・4時間も、電車で1時間以上もかけて来てくださって、ありがとうございました。それに色々なゲームをしましたが、中でも1番楽しかったのは、指を差された時に自分の名前を言う、というのが楽しくて楽しくて毎時間が楽しかったです。でも、1番はずかしかったのは、たとえば「カッコイイ」と言ったらそのポーズをするっていうのが はずかしかったです。でもその練習のおかげで、大きな声で、気持ちを少し込められるようになりました。私たちのために ありがとうございました。

6年1組 女子

- ・卒業式よびかけのアドバイスなどをしていただきありがとうございました。またいつか大戸小に来てください。でも次に会う時は中学生かもしれませんね。本当にありがとうございました。

6年1組 男子

(2)その他の事業

(2)その他の事業						
事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
	本年度は実施せず					